

2016(H28).08.26

創部70周年記念事業がラグビーマガジン10月号に掲載

7月17日(日)に実施した日立一高ラグビー部創部70周年記念事業の様子が、ラグビーマガジン誌のP.78「mini news」の欄に掲載されました。(50周年記念事業・60周年記念事業に続いて3回目の掲載です。)

今回は、佐野高校OBのシギー吉田さんが、当OB会の確認・了承の下に投稿してくれたものです。(シギーさん、ありがとうございました。)

後半、試合を決定づけるトライを上げたのが「巻選手」になっていたのはご愛嬌ですが、読み物としてもなかなか面白い内容になっています。みなさんも、ぜひ御覧ください。

mini news



現役時代と変わらぬ快足の吉野俊郎氏(撮影:谷本結利)

▼日立一高創部70周年
かつて1枚の切符を争った盟友
節目にレジェンドたちが激突。
そこに集まったのはラグビーと
いう魔法にかけられ、高校生に戻
った男たちばかりだった。

7月17日、創部70周年を迎えた
茨城県立日立第一高校ラグビー部
は、記念事業の一環として、宿敵
栃木県立佐野高校を招待し、日立
市民運動公園陸上競技場にて中高
生から40歳以上OBまで4つの記
念試合を行った。

両校の因縁の対戦は、花園への
一枚の切符をかけた38年前の東関
東代表決定戦までさかのぼる(当
時は各県1校出場ではなかった)。
日立一はCTB吉野俊郎(早大
↓サントリー、元日本代表)とN
O8益子俊志(早大、元早大ラ
グビー部監督)が出演し、後に早大
ラグビー部で同期となるSO津布
久誠(早大→日新製鋼)の佐野を
19-6で下し花園へ初出場を果た
した。しかし数年後、SO石井勝
尉(早大、佐野ラグビー部監督)、
CTB藤掛三男(早大→ワールド、
佐野日大ラグビー部監督)などの
日本代表を輩出した佐野に苦戦を
強いられ、最終的な戦績は2勝3
敗と負け越している。



当時を戦ったレジェンドたちの
試合は20分ハーフで行われた。
試合開始後、場内を沸かせたの
は、フル出場をした日立一CTB
吉野だ。頭髪が少しロマンスグレ
ーになっただけで、体型も走りのも
ステップも昔のまま。前半開始
早々、左隅にトライ。先制点を挙げ
た。佐野も後半10分、SO石井
からCTB高岩(明大)にパスが
通る。左隅にトライ。場内を沸かせ
る。終了間際、日立一はCTB尾
又(明大)がトライを追加し、
前半を14-7とリードして折り返
す。

後半、佐野はNO8藤掛の猛突
進でワントライを返し14-12まで
詰めよったが、日立一はNO8巻
(茨城大)が2トライを挙げ、反
撃を抑えてノーサイド。24-17で
勝利をものにした。

総監督として指揮した当時の両
校監督、滑川正昭氏(日立一)と
糸川茂夫氏(佐野)は、試合後に
固い握手を交わした。

「こういう試合でも勝たなければ
悔いにくからね。勝ってくれて
試合の後、記念式典が盛大に行われた。写
真左から益子俊志氏(日立一)、石井勝尉氏
(佐野)、吉野俊郎氏(日立一)。(撮影:保田
田直行)」

よかった」とは、怪我で出場でき
なかった副将、益子氏。
「懐かしい仲間との再会が最高に
嬉しかったです。でも一番会いた
い宿敵、津布久に会えなかったの
は残念です」

この日、攻守に活躍した吉野氏
は、仕事で参加することができな
かった盟友に思いを馳せた。楯円
球に青春のすべてを賭けた男たち
には、それぞれに物語があるのだ。
魔法が解ける翌朝、全身の筋肉
痛がこの日のことが夢ではなかつ
たと出場選手たちに告げたいに違
いない。

次回は、5年後にキックオフの
笛が鳴る。70周年を迎える佐野高
校の本拠地での再戦だ。